

| 科目名(英文名) | ナンバリング | 単位数 | 年次 | 期間 | 担当者 |
|--|--------|-----|-----|----|-----------------|
| 知的財産経営戦略特論(基礎)【MS】/知的財産経営戦略特論【MS】 (Advanced Study of Intellectual Property Management Strategy) | MPCD03 | 2 | 1年次 | 前期 | 内藤 浩樹(ナイトウ ヒロキ) |

| | |
|----------|--|
| 授業のねらい概要 | 企業経営の最大課題が国際的な競争力の強化に変遷する中、経営戦略を立案遂行する上で、グローバルな知的財産の状況を踏まえた事業環境の分析・経営上の判断力の向上が、今後、企業にとっては必要不可欠である。 本講義では、企業経営における知的財産活動を経営者視点で学ぶことにより、企業における知的財産部門の責任者を目指す人、独自の商品・サービスに基づく新規事業の創出を目指す人、企業連携を踏まえた上で事業拡大を目論む人、仕事の幅を拡大するために知的財産に関する経営判断力の基礎を身につけたいと志す人を育成する。 |
|----------|--|

| 授業計画 授業のスケジュール | 回数 | テーマ | 授業の内容・教育方法 | 予習/復習 |
|-------------------|------|-------------------|---|---------------------------|
| | 第1回 | 経営視点とは | 経営者の視点から見た知的財産の位置づけを講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第2回 | 財務三表と経営状況 | 損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書と、知的財産の関係を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第3回 | ライセンス収支の取り扱い | 知的財産活動におけるライセンス収入と支出の経営における取り扱いを講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第4回 | 知的財産の取り扱い | 産業財産権に代表される知財資産の経営における取り扱いを講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習・レポート提出(4H程度) |
| | 第5回 | 管理会計と知的財産 | 企業における管理会計から見た知的財産活動の位置づけを講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習・レポート提出(4H程度) |
| | 第6回 | 知的財産の経営効果 | 企業における知的財産の投資効果について、講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第7回 | 知的財産戦略の基本 | 経営戦略の履行に向けての知的財産戦略の基本を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第8回 | イノベーションと知財戦略 | イノベーションの態様、ビジネスサイクルの時期に応じた知財戦略を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第9回 | 知財ポートフォリオマネジメントとは | 知財ポートフォリオマネジメントの基本を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第10回 | 知財ポートフォリオの戦略活用 | 知財ポートフォリオの調査分析を通じた経営戦略の実践手法を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第11回 | 知財ポートフォリオの調査分析 | IPDL、Espasnetを活用したグローバルな知財ポートフォリオの具体的な分析手法を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第12回 | 世界の会計基準 | 米国会計基準、国際会計基準の基本を理解し、海外企業の知財活動の分析手法を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第13回 | 企業における税務 | 国内外の税務制度の基本と、知的財産活動の取り扱いを講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第14回 | 知的財産と国際税務 | 知的財産に関する各国の優遇税制と、その活用手法を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習(4H程度) |
| | 第15回 | 国際動向と今後の展望 | 今後の国際的な知的財産を取り巻く環境と、企業が目指すべき方向性を講義を通じて学ぶ | 講義資料の熟読による復習・レポート提出(4H程度) |

| | |
|--------|---|
| 到達目標 | 1. 企業における知的資産、知的財産活動の状況を分析することができる。 2. 企業における知的財産の見地から、経営の方向性を提案できる。 |
| 評価方法 | 講義内容の理解度を評価 ・レポート内容(講義中に提示する演習課題に関するレポートの充実度) ・講義への参画度(出席頻度、質疑応答を通じた講義への参画度) |
| 成績評価基準 | レポートにより、到達目標1を達成しているかを判定する。達成していない場合、本単位を取得できない(欠格条件)。 到達目標1を達成している場合に限り、到達目標の2、3の達成度を、評価方法に示す内容で総合的に判定する。 A: 到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均90%以上の達成度で実施できている。 B: 到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均80%以上90%未満の達成度で実施できている。 C: 到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均70%以上80%未満の達成度で実施できている。 D: 到達目標、評価方法を勘案し、すべてを総合して平均60%以上70%未満の達成度で実施できている。 F: 上記以外 |

| 教科書 | | | 参考書 | | |
|-----|-----|------|----------------------|-----------|---------|
| 書名 | 著者名 | 出版社名 | 書名 | 著者名 | 出版社名 |
| | | | ロイヤルティの実務詳解 | 淵邊善彦、他3名 | 中央経済社 |
| | | | 国際税務 グローバル戦略と実務 | KPMG税理士法人 | 東洋経済 |
| | | | 財務3表のつながりで見えてくる会計の勘所 | 國貞 克則 | ダイヤモンド社 |

| | |
|------|---|
| 受講心得 | 経営的な視点からの判断力を身につけるために、知的財産の観点からの有価証券報告書の分析、知的財産ポートフォリオの分析手法についての演習を、講義と並行して行いますので、積極的な受講をよろしくお願いたします。 講義の円滑な遂行に向けて、講義資料の配布、レポート提出の手続きにおいて、コミュレボを積極活用します。 課題レポートに対しては、講師からコメントを行いますので、その内容についての復習をお願いします。 なお、本科目は双方向形式メディア授業に対応しています。 |
|------|---|

| | |
|---------|---|
| オフィスアワー | 社会人も対象とする梅田キャンパスにおける講義につき、授業時間の前後において、質問を受け付けるとともに、それ以外の時間帯も、個別連絡に基づく質問や相談に応じ、また、日常的にメール等による相談も受け付けます。 原則、講義終了後、水曜日の7限目、梅田キャンパスのロビーとします。 |
|---------|---|